

播種作業は5月下旬を中心に行なわれました。播種前後の高温により、培土にカビが発生したところがありましたが、その後の苗の生育は概ね順調です。苗が大きくなるほど乾燥しやすいため、かん水不足やムラがないよう気を付けましょう。

## 1 水管理とスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）対策

中干しまでの水管理は、分けつ促進とジャンボタニシの食害防止のため、浅水管理を基本とします。

防除を行う場合は、スクミノンを10a当たり2～4kg、タニシの多いところを狙って散布します。ジャンボタニシは、田植直後～20日後頃に最も激しく水稻を食害します。その後は、発生する雑草を食べてくれるという利点もあります。

また、麦わらすき込み田では、ガス害が発生する場合があります。苗が活着する様子がなく、葉が黄色い場合や、ほ場に入ると泡がブクブク出て、ドブのようなにおいがする場合は、ガス害の可能性あります。落水し田面を軽く干して、ガス抜きを行います。

## 2 除草剤

○雨により初期除草剤を散布できなかつたりして雑草が残っている場合は、中・後期除草剤を使用しましょう。

薬剤名	使用時期	散布量 10a当たり	備考
ワイドアタックSC (液剤)	移植後20日～ ノビエ6葉期	100ml (水100Lに希釈)	○ヒエ、広葉雑草の両方に効果 ○落水して雑草にかかるよう散布
クリンチャー 1キロ粒剤	移植後7日～ ノビエ4葉期	1kg	○水をためて散布
	移植後25日～ ノビエ5葉期	1.5kg	○キシユウスズメノヒエに適用あり
クリンチャーバス ME液剤	移植後15日～ ノビエ5葉期 収穫50日前まで	1,000ml (水100Lに希釈)	○ヒエ、広葉雑草の両方に効果 ○落水またはごく浅く湛水して散布 ○展着剤は加用しない

## 3 中干し

- (1) 1株当たりの茎数20本を目安に、中干しに入ります(田植の1か月後)。特に「元気つくし」は倒伏防止のため、中干し開始が遅れないように注意しましょう。中干しの程度は、小ヒビが入り、足型がつく程度まで干します。
- (2) 中干し後は、間断かん水を行います。
- (3) その後、穂ばらみから穂揃期にかけては最も水分が必要な時期なので湛水状態にします。
- (4) 水が豊富にある場合は、高温障害回避のため、穂ばらみから出穂2週間後程度までかけ流しを行い、ほ場内の温度を下げます。

**農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!**